



知をつなぐ。世界をつなぐ。未来をつなぐ。
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION CENTER

第34回 ビジネス日本語研究会

「就労日本語教師の質の可視化」について

一般財団法人 日本国際協力センター (JICE)

日本語教育専門職員 平山智之

本日の発表

- 1) 就労日本語教師の課題
- 2) 文化庁研修のポイントと課題
- 3) 就労日本語教師の質の可視化

Ⅰ) 就労日本語教師の課題

① 個人的経験

- ・ 就労分野の日本語教育との接点（就労目的の学習者との出会い）
- ・ 教室で実践を行う教師からコースデザインをする教師へ（両者の視野の違い）
- ・ 教師研修のデザイン

1) 就労日本語教師の課題

②JICEの現場から（「外国人就労・定着支援事業」厚生労働省委託）

■ コースデザインをする教師

・対象者、コース目的、その他条件に応じた、教育方針・計画、教材開発

（※「定住外国人」×「就労者」、キャリアプラン未定、Can doベース・課題達成型実践のテキスト、
厚生労働省の意向・ニーズ）

・教育現場に入る日本語教師へのコースや教材についての説明、充実した実践に向けた支援・指導

■ 教育現場で支援・指導を行う教師

・コースデザインの理解、コース設計・指導方針を踏まえた実践についての理解

・各地域、各クラスの個別で変則的な状況に応じた授業設計と実践

1) 就労日本語教師の課題

③就労日本語教師の課題とは？

共通する課題は…

- ・ 既存の考え方でやってきたこと（前提）を崩して状況を捉え直す
- ・ 両者（関係者間）の継続的な対話、お互いに橋を架ける

2) 文化庁初任者研修のポイントと課題

「就労者に対する日本語教師初任者研修」 (2019~2022)

■ 就労日本語教師としての資質・能力の向上

→ 資質・能力リスト(文化庁)に対応した研修内容の提供

■ 就労日本語教師(初任)の課題解決に向けて

→ 学んだことが現場に適した形で活かされる、発揮されるには?

研修終了時は、まだ中間地点。教育現場で成長・学びがつづく。

2) 文化庁初任者研修のポイントと課題

JICEの研修の特徴・ポイント

■ 反転授業やワークショップ

知識・技能・態度を統合的に学ぶ、参加者自身もリソースに

■ 内省ツールの活用

参加者一人ひとりの教育現場と問題意識から考える

■ フォローアップ研修

研修終了後の実践報告…実践現場での学びの共有、ネットワークづくり

2) 文化庁初任者研修のポイントと課題

課題…「初任」教師の多様さ

- ・日本語教師としての経験
- ・就労者に関わる日本語教育現場での経験
- ・日本語教師以外のキャリアや経験

研修スタート時点の凸凹、各現場で期待される教師像も実はさまざま

3) 就労日本語教師の質の可視化

資質・能力の可視化

■ リストとして可視化

…就労日本語教師像の検討材料(個人・教師間・企業・就職支援者)、自己評価の指標

■ リストで可視化しきれない部分も含めてトータルで捉えることも大切

…就労日本語教師と各教育現場の関係者との関係性の中に
教師の「質」の一面が実態として現れてくる

→ 既存の考え方でやってきたこと(前提)を崩して状況を捉え直す

共通の指標

×

教育現場での実践から生まれる課題

(正解としてではなく相対化の材料として)

(不確実・変則的、終わりのない再構築・向上)

ご清聴 ありがとうございます